

平成19年度「基礎・基本」定着度調査の結果概要

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な内容のうち、「読み・書き・算」等の基礎学力について、県全体の定着度の状況を調査する。

(2) 調査の実施日 … 平成20年1月16・17日

(3) 調査の対象等 (県内すべての公立小・中学校に実施)

校種	学年	調査内容	実施校	児童生徒数
小学校	第5学年	国語, 社会, 算数, 理科	574校	16,702人
中学校	第1学年	国語, 社会, 数学, 理科, 英語	255校	17,459人
	第2学年	国語, 社会, 数学, 理科, 英語	261校	17,260人

* 調査人数は、欠席等により各教科、設問によって異なる。(上記は最大値を示す。)

(4) 調査結果の活用

調査結果の概要は、県内すべての公立学校及び市町村教育委員会等へ配布するとともに、指導方法の工夫改善の参考となる資料を作成し、県のWebページに掲載し、各学校の基礎学力定着の取組を支援する。

2 結果の概要

小学校は概ね定着している。中学校では国語、社会は概ね定着しているが、数学、理科、英語で定着が不十分であり、一層の指導法改善が必要である。
 中学校では、平均通過率が70%に達していない教科や学年があるが、年々、通過率が上がる傾向にあり、基礎・基本の習得と活用、学習意欲の向上にむけた一層の取組が期待される。
 本調査結果から、各学校では児童生徒のつまずきの原因を分析し、指導計画の見直しや重点化を図るとともに、授業における具体的な対応策を検討し、その取組を徹底する必要がある。

【国語】

学年	平均通過率(%)			
	H16	H17	H18	H19
小5	86.5	78.7	75.4	70.8
中1	75.6	65.2	72.3	72.9
中2	81.7	70.6	70.9	81.7

小学校、中学校とも概ね定着している。
 中学校においては年々通過率が上がっており読み取ったことに自分の考えを加えて書く問題等について、確実な取組の成果が見られる。
 言語事項については、小学校から継続的に繰り返し練習することが大切であり、機会をとらえて使用の日常化を図る指導が必要である。

【社会】

学年	平均通過率(%)			
	H16	H17	H18	H19
小5	77.5	73.5	81.3	77.7
中1	59.3	58.9	63.3	73.0
中2	63.3	63.1	66.9	72.4

小学校、中学校とも概ね定着している。
 中学校の通過率が上がり、取組の成果が見られる。
 これまで通過率の低かった問題と同傾向の問題について、通過率が改善されていないものもあり、指導の充実・改善が必要である。

【算数・数学】

学年	平均通過率(%)			
	H16	H17	H18	H19
小5	81.5	72.6	73.2	79.1
中1	64.8	72.3	67.5	73.9
中2	62.9	66.8	68.8	68.8

小学校は概ね定着しているが、中学校2年は定着が不十分である。
 小学校、中学校1年の通過率が前回より上がっており、定着に対する取組の成果が見られる。
 通過率の低い問題が特定されることから、指導方法の工夫改善を図るとともに、定着を図る学習時間の増加を工夫する必要がある。

【理科】

学年	平均通過率(%)			
	H16	H17	H18	H19
小5	76.9	76.1	72.8	76.1
中1	63.9	66.0	64.8	68.2
中2	56.9	66.9	63.4	57.4

小学校は概ね定着しているが、中学校1, 2年はともに定着が不十分である。
 過去、通過率が低い傾向にある内容を重点的に出題した。観察・実験の技能、表現は概ね定着しており、考察やまとめの充実が求められる。
 中学校2年では、概念形成が難しい領域・内容について、理解を深めるためのモデルや図解等を工夫し、くり返し指導する必要がある。

【英語】

学年	平均通過率(%)			
	H16	H17	H18	H19
中1	(58.8)	(55.7)	68.5	69.1
中2	(59.5)	(52.6)	58.3	59.0

* 英語は、平成18年度以降、採点の観点異なる。

()のH16, 17年度分は参考表示。

中学校1, 2年ともに定着が不十分である。
 「書く」領域について若干の改善は見られるが、言語使用場面に適する英語表現の運用については、一層の取組が必要である。
 音声を中心に基礎的な語い・文型の定着を図り、状況に応じた表現力を育成する指導の改善が必要である。